

… 雨でも休まず：第137回～第140回 …

### 「若柳・嵐山の森」から

- 定例1：森林整備に注力：9月4日(第一曜日)：参加費300円
  - \* 暑さはまだ続く／苦しい下草刈りの季節
  - \* 蜂に気を付けろ。先月は6人、やられた。黒い服装禁止。
- 定例2：里山交流の森：9月19日(第3曜日)：参加費500円
  - \* 飯は主食のみ持参。副食は、土地の物で
  - \* 栗拾いができる。親子でおいで…。
- ◎ 臨時1：早稲田／地球感謝祭：9月15日(第3曜日)：参加費ナシ
  - \* 相模湖町商工会と共に、森林活動の広報をする。
- ◎ 臨時2：やまなみ五湖の広報：9月25日～26日：参加費ナシ
  - \* 神奈川県企画部に協力、津久井郡／水源の森を広報。海老名PA。
  
- “必ず申込” ボランティア保険等。T&F 03-3411-1636
  - \* 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
  - \* 服装：汚れて良い格好、長袖、着替え。足元の滑らない履き物。
  - \* 持参：保険証の写し。未だ暑い、飲料水は絶対…熱射病が怖い。

### 「ボランティア」と「NPO法人」

- ボランタリィ：voluntary：自発的な、自由意思の、任意志願の…。volunteer。  
カソリックの布教活動の仕組みの中に収入の10分の1を困っている他人のために寄付する行為から発生した活動。
- NPO：Non Profit Organization：特定非営利活動法人、組織、団体。配当など代償を求めず活動に責任を負う人々の集団。当会は、このNPO法人である。
- NPOの代表例：病気の困窮した人々を助けるために医療活動する事から始まった米国の聖マリアンヌ医科大学がある。日本でも救民小屋とか寺子屋などがあったが、キリスト教などの組織的な活動ではなかった。日本では未だ、NPO活動の本質が理解されていない。

## ● 活動報告1／8月 7日（第一回）；森林整備

晴れなのか曇りなのか良く分からない、汗、ダラダラの蒸し暑いこの日、武藏工大から6人、川崎市の「まちづくり研究会」から4人を加えて31人の参加。そして、FCC／県産材推進活動に確信をもたらす事になった石本堅志さん参加。

石本さんとは、今年1月の県の「森林シンポジウム」で知り合った。本人は、県産材だけで家を建てる林業屋と自称する林業技士。「県産材で家を建てたい川崎市民＋森林再生に取り組みたい武藏工大生」に引き合わせた。

・森林整備班：崩落跡地下部の藪刈り、蜂に4人がやられた。

班活動とは別に学生が2名、計6名の被害だが、軽傷で良かった。大日向仲間が、唇をパンパンに腫らしてセクシーになっていた。

・花畠班：この蒸し蒸し日、苗畠に仮植した桂幼木を覆う

つらい雑草刈りを済ませてくれた。感謝。

来春は、適齢期が来るこの幼木の嫁入り先、募集中。

・生態系班：午前中は、学生に付き合ってくれて午後は、本職／植生調査に没頭。この班は、会運営にもいろんな事を考えて提案してくれる。

・炭焼班：竹炭の窯出し。大成功。これを川崎グループが買ってくれた。代金、ン？千円では資金の足しにならないが、彼らもボランティア。少しでも、出してくれる事が万金に値する。

・石本さん：森をグルリ、石本さんを案内しながら同行の参加者がどう感じるかを考えつつ案内した。石本さんは…、こんな立派な森には滅多に巡り合えない。ここには、寺を建てる木がある。林業が食えないのは、工夫・努力が足りないだけ。俺は、十分にやって行けている。9月には全くの県産材で3棟の見積もりに入る。森は、取り組み次第…、と言った。

\*電動ノコで一人、手を切った。守屋まり子救護員の素早い応急処置と大坪仲間が日赤津久井病院へ搬送した。何事も無かったかのような処置。備えがあれば憂いなし。実は6針、縫った。

小沼看護士の指導宜しきを得て森仲間の緊急対応の成果。



昨年の植樹祭で植たサルスベリ

## ● 活動報告2／8月15日：里山交流・緑のダム学校

・8月14日：本当のところ、「桂川・相模川流域協議会」との共催だったが「お盆休みを甘く見て」いたことから、たった8名の参加となった。しかし、真剣に藪刈りに挑戦して成功裡に終了した。夕方から夜半、ズーット、雨。テントに雨が流れ込んで込んで来て、散々な活動。

これを失敗と思うか、成功と思うか。ザーザー降りの雨でも最後までやり遂げた事を成功と言わず何と言うのか。事の成否は、心の中にあり。

- 8月15日：前日からのザーザー振りの雨が続く中、JR相模湖駅には、何事もないように仲間たちが続々と降り立って来る。“雨でも休まず”が完全に根付いている。“雨の森だからこそ、新しい発見を探す”と思う仲間たちである。東海大付属／望星高校、武藏工大／環境学部の参加を含め43人。中一の邦久とお姉さん(大)の綾乃さんも来た。

激しい雨脚の中、森仲間たちが、ズブ濡れになりながら急ごしらえの雨避けのブルーシートを張る。  
互いを認め合い相手の手元を見ながら足りないところを補完し合う大人感覚が協働する。この活動に参加する仲間たちが所謂(いわゆる)、大人だから個々人と団体としての活動がバランス良く機能している。

“雨でも休まず：継続は力なり”の体験がまた、積み上がって行く。

「真夏の今、大いに濡れろ、恵みの雨だ。足下だけには付けろ。作業はなし。各班長は宜しきに従え」と宣う(のもう)園田総隊長。その中で斎藤校長の指揮する「緑のダム体験学校」が軽快なテンポで進められて行く。特に、望星高校生の元気が活動を愉快にしてくれた。引率の宮村先生の教育に対する真摯な取り組みに負うところ大。

生態系調査班は午後、篠田指導員のリードで武藏工大／環境情報学部(小畠研究室)との今後の調査方針の打ち合わせと現地調査のため林番境の沢の現場視認を行った。



\*作業が終わり、道具の手入れの鎌研ぎでKさんが手を滑らせてチョコット指を切った。怪我と言える程のものではなかったが作業の緊張の緩みはないかと自らを諫める声もある。この事から道具の手入れの場所も決めた方が良いのではないか、参加者も増えて子供の参加もある事だから万全を期したい。倉庫脇の余り人の近づかないと場所が良いと言う提案。早速、そうする。



\*富沢さんが「道具管理を徹底する事」を自ら実践した後ろ姿を見て他の仲間の道具の扱い方に変化がある。鎌研ぎ・鋸拭きなどの後始末が徹底して来た。

\*倉庫の中の整理整頓も進んでいる。私物を置く人がいなくなった。どうしても必要な人は、理由を添えて、了解を求めてくれれば良い。

○特別の報告：お花畠班が面白い事を始めた。東海自然遊歩道添いにあるこの森の入り口：お花畠に通りすがりのハイカーを森に誘うために喫茶を始めると言う事だ。また、花の種の購入など会からの出費をさせないために自前で活動費を貯めよう。店名は、“喫茶：ムササビ(鳴鶴)”とか。「ダッチオブン料理とビール飲み放題／但し、有るだけ」で千円ポツキリ。活動終了後、雨もあがった事だから手始めに仲間の意見も聞こうと炭窯広場で店開きをしてみたら大繁盛して飲み放題のビール品切れ。安いか高いかは分からぬが楽しい・面白い事は、保証できるとの皆んなの評価。金がなければ知恵を出すN P O活動の真価發揮せり。

○その他の活動：親子森林体験講座：大月・森つくりの会：7月25日、桂川・相模川流域協議会と共に「大月・森つくりの会」の定例活動日に参加した。4年前、森林ボランティア活動を教えて欲しいと言って来た河西悦子さんの主催。大月で活動を開始して3年5ヶ月が経過する。この日は、神奈川からバスを仕立てて親子森林体験に50人が参加した。白樺林で昼食、笛子小の学校林見学、大月・森つくりの会の管理する森の中での工作教室。大月林務、大月森林組合、近所の人達が支援に入っていた。この日の活動には、「大月・森つくりの会」が見事に育ち上がっている事を証明した。河西さんの無私の行動がそうした。「大月・森つくりの会」は、法人化の準備も進めている。

## ● その他の活動

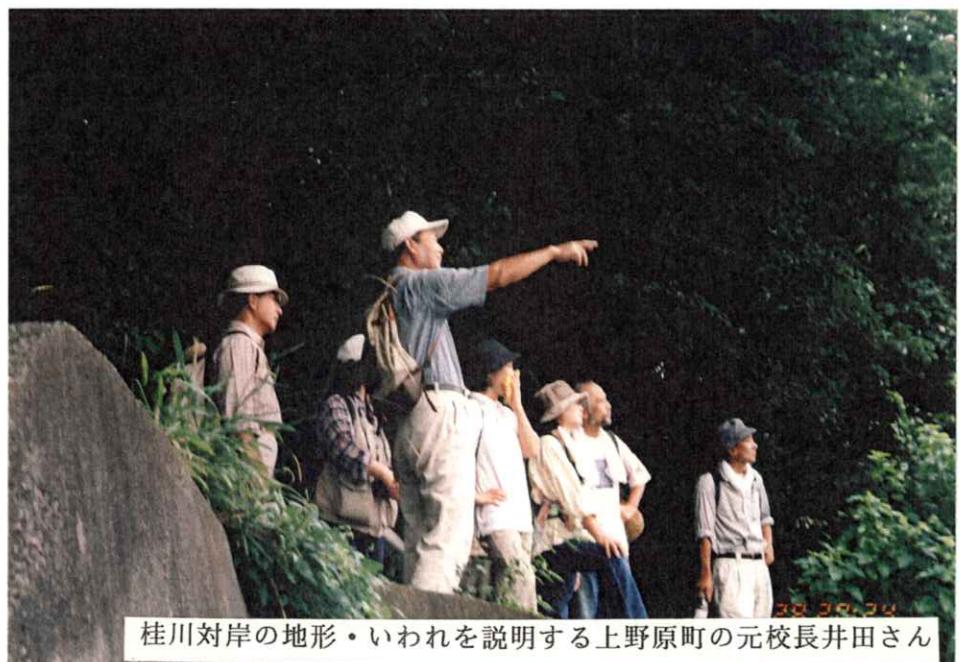
1、相模湖町が“古道復活”を正式に検討を始めた。

・県／林務から紹介を受けて5日、林野庁国有林部：総合利用推進室の栗田係長を斎藤仲間と訪ねた。栗田係長は、推進室の進める「むかし道復活」の意義とご本人の実践を熱っぽく語り、当会の活動を評価してくれ付き合いが始まった。

・6日、相模湖町から話し合いの連絡を受けて相模湖町の財政企画を訪ねた。

県から「甲州古道」を地域活性化に組み入れるよう指示があったそうだ。

・8日、第一活動日の帰路、試



作道標をJR相模湖駅前でその積み替えをしていたら、通りすがりの町の人、数人「あんたたちのことは、聞いているよ～。その内、手伝うからね～」と声を掛けてくれた。

## ● 「森林と都市生活者をつなぐ活動・協議会」

- ・国産材活用と林業再生システムに実績のある黒川哲郎教授（東京農大・建築科）のご指導の下、県への提言書を作成した。県宛提言書は、これに賛同して打合わせ等に参加して下さった上流・中流・下流の皆さんに目を通して貰って提出できる段取りになった。
- ・この作業に平行して自然公園課の技官や県森連の担当部長、素材生産者などの方々の案内で神奈川の森林各所を見て回った。税金で手の入っている公有林は、そこそこでも私有林の荒廃振りは異常で、これは私だけの印象だろうかと「丹沢大山新総合調査研究会」に所属する富村周平さんを訪ねてこの疑問を質した。「そうです。私有林は殆ど壊滅か、壊滅寸前の状態にまで来ています。県に“緊急提言”的必要を感じています」と言う話になった。
- ・水源環境政策が県議会で討議に入っているが新聞の報道では「県当局：事業内容示せず。議会側：世論形成進まず／実現への道陥し」と報道している。森は、「実現の道陥し」では、済まない状態になっている。

### ○ この提言書の中身と今後

「相模川流域材を流域通貨的に応用して新しい林業システムの構築を試みる／持続可能な流域経済圏の構築」。N P Oなど県民自らが行政と協働して森林・社会構造の変革を目指すと言う大いなる試みである。

8月20日、環境農政部／林務課を通じて松沢県知事に提出した。  
アドバイスを受けて満足の行くものになった。

この提言書は、総論なので提言に具体的性が欠ける。そこで提言第2弾は、4年掛けて検討して来た「水源環境の保全・再生政策」の20の事業の内…、

- ・事業7／森林担い手の育成事業：森林労働者の確保、森林ボランティアの参画促進等
- ・事業8／森林資源の活用事業：森林資源産業の振興を通じた森林保全の促進

をもう一步、踏み込んで「緊急を要する私有林の整備、抜出流域材を県産材として商品化する。人材育成はこの取り組みの中でO J Tで進める。

### 案内 … 9月の臨時活動

#### 1、早稲田；地球感謝祭

9月20日、早稲田商店会連合会と早大大隈講講堂前広場に参加。相模湖町商工会との共催。早稲田との付き合いから相模湖町と早稲田町のいろんな提携が始まった。

先ず、全国でも珍しい「震災パッケージ」。

これは、もし、大震災があったら相模湖町が早稲田町の被災者を引き受けると言う仕組み。神奈川新聞が一面トップに掲載した。

「甲州古道」にも繋がりが出来て、江戸開府400年祭の参加となって都庁前広場で広報した。

早稲田は、丸茂仲間の仕掛け。

#### 2、県／企画部：やまなみ五湖

9月25日(日)～26日(月)、東名高速海老名下りPA。昨年は、神奈川県建具組合が協力してくれた。当会で大坪仲間の丸太ベンチや兼松仲間の「檜風呂の素」などが馬鹿売れした。もち、鋸引き体験は、大好評。

最大の収穫は、県／企画部とお近付きになった事。皆さん、熱心に真面目で、それに引けを取らない仲間たちと意気投合した事。それが今年の県との交流にどんなに良い影響を与えた事か。「交通費+昼食代」位は出してくれる。沢山の参加を望む。斎藤仲間にお世話係をお願いした。

## 幻の甲陽鎮撫隊と甲州路

鳥羽伏見の戦いで官軍に破れ江戸に戻った新撰組が、甲陽鎮撫隊を編成して華やかに江戸を出発したのは1868年（明治元年）3月1日でした。近藤 勇を隊長に、土方利蔵を副隊長に新撰組27名に、新たな募集をした隊員を加えて200名になりました。

新宿で一夜を過ごした一行は、1日目は府中、2日目は八王子で昼食、小仏峠を越え与瀬宿に宿泊しました。3日目は相模、甲斐の国境で猛烈な吹雪に悩まされ疲労困憊、上野宿で態勢を立て直し降りしきる雪の中を鶴川宿、野田尻宿、犬目宿、鳥沢宿、を経て、猿橋宿へ宿泊しました。

4日目、大月、花咲、初狩、白野、阿弥陀、黒野田を過ぎ小仏峠に並ぶ難所笹子峠を越え駒飼に宿泊。いよいよ甲府盆地、疲れの見える一行も、元気を取り戻し、何の苦もなく甲府は手に入るものと合点しました。しかし、そうは問屋がおろさなかった。峠を降り、いざ進撃となると形勢は一変していました。

甲州城は徳川幕府の直轄領統治領です。倒幕東征軍の総督岩倉具実は、甲府鎮定を板垣退助に任せました。板垣退助は3月3日に上諏訪を出発、鳴本、韮崎を急進、4日には甲府城下に迫り、「朝廷を拝して開城帰順すべし」を布告、東征軍は王政復古の旗印を掲げ、幕府討伐の声明を出しました。遂に5日には、板垣退助は無血入場しました。

笹子峠の山路を6キロ下った柏尾を決戦の場として甲陽鎮撫隊。運命の3月6日、形勢不利と見て逃亡者があり近藤勇率いるのは120名。対する1000名を越える東征軍。多勢に無勢に等しい一戦は戦う前から雌雄は決していました。かくして甲陽鎮撫隊は、壊滅し幻と消えました。

次回は、甲陽鎮撫隊より小原宿が救われた話を掲載します。

（文責 中里）

### \* 訂正とお詫び、それから思う事。

7月号の“県有林視察”の題名で県森連の井手部長の案内で森林状況を報告したが、県のご担当者の指摘で視察したのは、県有林でなく私有林の間違いだった。ご担当者のご指摘は「県有林には、放置して荒らしたままの森はない」であった。間違った情報を流した事で井手さんと県に迷惑をお掛けした。お詫びして訂正する。ここでチョット嬉しい気もした。一介の森林NPOのニュースレターに県有林管理者が目を通して下さっている事。また、NPO活動でも報道の責任を自覚しなければならないところまで成長している事。

- 1) 9月4日(第一土曜) 森林整備に注力。
- 2) 9月19日(第三土曜) 里山交流
- 3) 9月20日(祭日) 早稲田地球感謝祭
- 4) 9月25日(第四土曜) やまなみ五湖  
26日(第日曜) 於：海老名PA

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…  
そして、沢山のご意見、参加下さい。  
名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)  
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村  
T & F 03-3411-1636  
協働団体／セブン－イレブンみどりの基金

\* HP : <http://www008.u.p.p.s-p-n.e.t.j.p/kita sagami>